

2021年10月29日

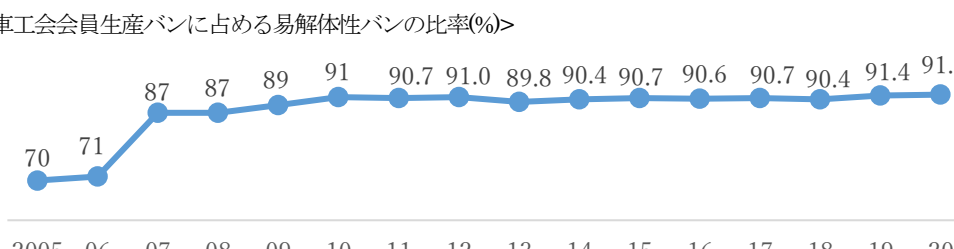
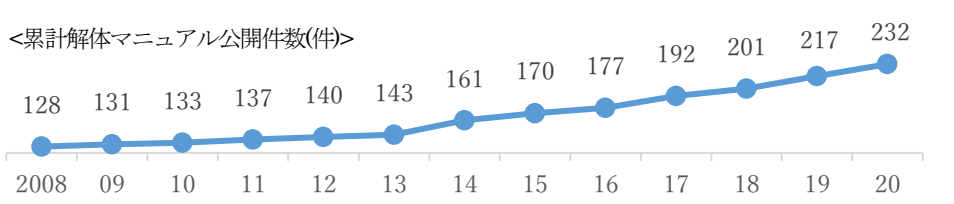
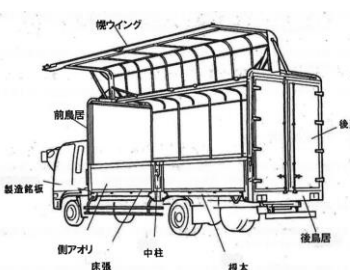
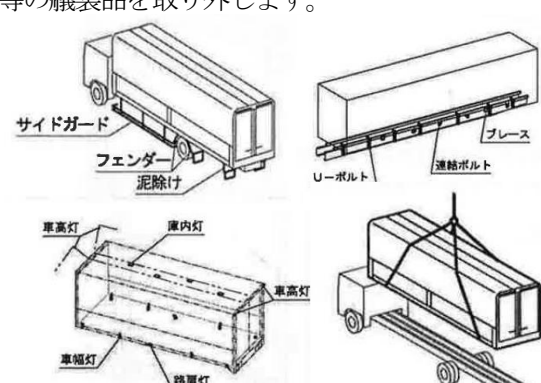
一般社団法人 日本自動車工業会

一般社団法人 日本自動車車体工業会

商用車架装物リサイクルに関する自主取組みの進捗状況について

本取組みは両工業会共同で2002年11月以降実施してきたものである。活動概要は以下のとおり

1. リサイクル設計の推進 : (1) 車体メーカー各社にて製品展開拡大中
 (2) 易解体性向上・解体マニュアル充実のため平ボデー、バン型車解体実験を実施
 設計への反映、解体マニュアル記載内容見直しを推進
 (3) 環境基準適合ラベルの貼付目標 80%達成済み(2020年度91.4%)
2. 重金属4物質の使用削減 : 鉛、六価クロム、水銀、カドミウムの4物質すべて目標達成を継続
3. リサイクル・適正処理の推進 : 協力事業者制度継続中。LiB情報も追加し情報充実
4. 情報提供、啓発活動の推進 : 関連事業者との情報交換、協力事業者情報の車工会HP掲載継続。解体作業見学会、シャシー・架装物工場見学会は2020年度はコロナ禍のため中止

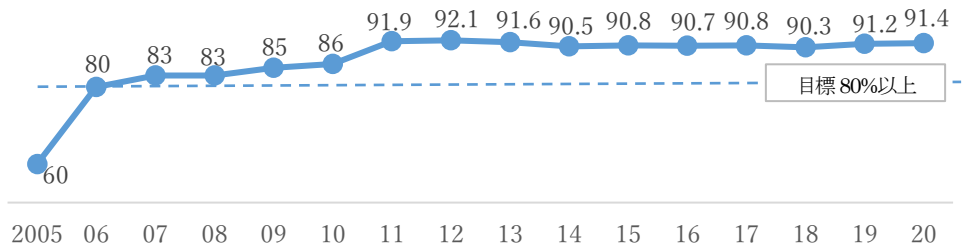
自主取組みの内容	進捗状況																																		
<p>1. リサイクル設計の推進</p> <p>(1) 易解体性向上および適正処理の推進 [目標: 易解体性バンの試作、製品展開]</p>	<p>①各社にて各種易解体性バンの開発、製品化を展開中</p> <p>②易解体性バンは 2020年度車工会会員バン生産の91.6%(63,979台)</p> <p>③解体業者団体と連携して平ボデー、バン型車等の解体作業見学会を実施。解体時間短縮のための課題を抽出、製品に反映し架装メーカー各社にフィードバック</p> <p><車工会会員生産バンに占める易解体性バンの比率(%)></p>  <table border="1"> <caption><車工会会員生産バンに占める易解体性バンの比率(%)></caption> <tr><th>年</th><td>2005</td><td>2006</td><td>2007</td><td>2008</td><td>2009</td><td>2010</td><td>2011</td><td>2012</td><td>2013</td><td>2014</td><td>2015</td><td>2016</td><td>2017</td><td>2018</td><td>2019</td><td>2020</td></tr> <tr><th>比率</th><td>70</td><td>71</td><td>87</td><td>87</td><td>89</td><td>91</td><td>90.7</td><td>91.0</td><td>89.8</td><td>90.4</td><td>90.7</td><td>90.6</td><td>90.7</td><td>90.4</td><td>91.4</td><td>91.6</td></tr> </table>	年	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	比率	70	71	87	87	89	91	90.7	91.0	89.8	90.4	90.7	90.6	90.7	90.4	91.4	91.6
年	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020																			
比率	70	71	87	87	89	91	90.7	91.0	89.8	90.4	90.7	90.6	90.7	90.4	91.4	91.6																			
<p>(2) 解体マニュアル作成 [目標: 主要3機種の大半をカバー]</p>	<p>①解体事業者等から要望のあった、主要3機種(レントゲン車、冷蔵・冷凍バン、タンクローリ)の解体マニュアル対応完了 (特装車製品など新規作成)</p> <p>②車工会会員各社ホームページにて公開中 累計公開232件(対前年+15件)</p> <p><累計解体マニュアル公開件数(件)></p>  <table border="1"> <caption><累計解体マニュアル公開件数(件)></caption> <tr><th>年</th><td>2008</td><td>09</td><td>10</td><td>11</td><td>12</td><td>13</td><td>14</td><td>15</td><td>16</td><td>17</td><td>18</td><td>19</td><td>20</td></tr> <tr><th>件数</th><td>128</td><td>131</td><td>133</td><td>137</td><td>140</td><td>143</td><td>161</td><td>170</td><td>177</td><td>192</td><td>201</td><td>217</td><td>232</td></tr> </table>	年	2008	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	件数	128	131	133	137	140	143	161	170	177	192	201	217	232						
年	2008	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20																						
件数	128	131	133	137	140	143	161	170	177	192	201	217	232																						
<p>「帆ウイングボデー 解体マニュアルの例」</p> 	<p>③解体事業者団体と連携、解体作業見学会を通じて得た作業実態をマニュアルへ反映</p> <p>解体作業手順 記載例</p> <ol style="list-style-type: none"> ①サイドガード、フェンダー、泥除け等の艀装品を取り外します。 ②車幅灯、車高灯・庫内灯・路肩灯等の電装品を取り外します。 ③Uボルト、連結ボルト・ブレース等の連結金具を取り外します。 ④クレーン等を使用してボデーをシャシーから取り外します。 																																		

(3) 環境基準適合ラベルの設定
〔目標: 車工会会員生産車の80%に貼付〕

〈 環境基準適合ラベルの要件 〉

- ① 3R判断基準ガイドラインの作成
- ② 解体マニュアルの作成・公開
- ③ 製造業者名の表示
- ④ 樹脂部品材料名の表示

・2004年3月、環境基準適合ラベルの要件を設定。2005年度以降は**目標80%を達成中**



バン型車の表示例



※2016年1月より、環境基準適合ラベルは、環境省ホームページ「環境ラベル等データベース」へ登録、掲載中

2. 重金属4物質の使用削減

(1) 鉛

〔目標: 使用量 2002年度 60g/台
→2006年度 30g/台に半減〕

(2) 水銀

〔目標: 2005年1月以降使用禁止(照明装置等を除く)〕

(3) 六価クロム

〔目標: 2008年1月以降使用禁止〕

(4) カドミウム

〔目標: 2007年1月以降使用禁止〕

2005年度より目標達成を継続

〈鉛フリー化の事例〉ダンプ、タンクローリ等の電着塗料への切替

2004年末より目標達成を継続

〈水銀フリー化の事例〉高所作業車の水平保持用のスイッチ

2007年末より目標達成を継続

〈六価クロムフリー化の事例〉金具類(例: 蝶番、ボルト、ナット、油圧ホースガードワイヤ)

2006年末より目標達成を継続

〈カドミウムフリー化の事例〉マーカーランプ、タンクローリ自動開閉装置の温度ヒューズ

⇒毎年重金属4物質の目標達成が継続されているかフォローアップ活動を実施中

3. リサイクル・適正処理の推進

(1) 協力事業者制度の構築と拡充

〔目標: 制度への登録拡充と
各ブロックへの適正配置〕

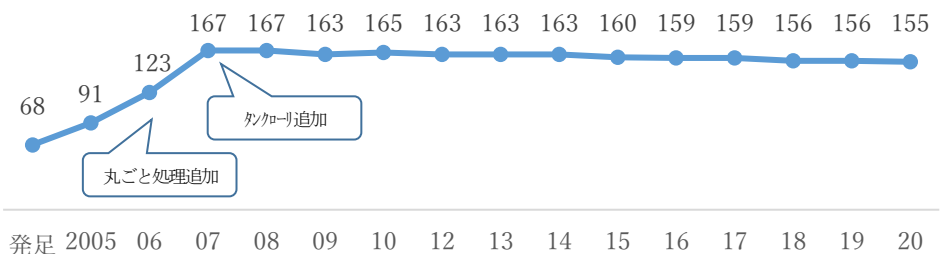
① 協力事業者について、全国各ブロックへの適正配置を継続

② 解体事業者の要望をふまえて丸ごと処理事業者ならびにタンクローリ残液の分析・処理・洗浄事業者も維持。2020年度はLiB情報も追加調査

車工会ホームページ掲載



〈協力事業者参加事業者数〉



4. 情報提供、啓発活動の推進

(1) 協力事業者情報をメンテナンスし車工会HPへ掲載、2021年4月から下記追加

- ・LiB情報を追加掲載
- ・事業者情報一覧表リストをHPからダウンロード可能とし利便性向上

2) 解体事業者への情報提供

従来実施の解体事業者団体等と作業現場の見学会・意見交換、及び、解体事業者団体へのシャシー・架装物工場見学会とも、2020年度はコロナ禍のため中止。2021年度の取組みを検討中